

◆帆苅謙治委員 松川委員が素晴らしいことを言いました。教育長が説明したいちばん最後の、道徳教育の充実に向けた職員研修ですが、道徳教育は1週間に1回やっているということですが、カリキュラムはあるのでしょうかけれども、それを指導する先生の資質によって、またこれが違ってくるということからすると、教員の研修が非常に大事だと思うのです。例えば、これは県立教育センターでやるのでしょうか。講師などはどういう人がやっているのか。教育長がやればきっちりとした指導もできるのでしょうか、その辺、どうなっていますか。

◎早川義裕義務教育課長 県立教育センターでの教員研修の具体的な内容についてですが、学校現場の道徳を推進する担当の教師を集めまして、お互いの学校での取組について実践発表をしたり、あるいはグループで情報交換、討議をしたり、それから大学の先生を招いて講義をしてもらったりということが、具体的な内容になっております。

◆帆苅謙治委員 そうすると、メニューというか、カリキュラムに沿った中でのグループでの討議とか、あるいは講習とかという理解でいいのですね。

それで、小学校でも中学校でも高等学校でもそうですが、多分、これはクラス単位でやっている道徳教育だと思うのです。はっきり言いまして、おかしな教育をしようと思えばできるわけです。カリキュラムをすべてこういうふうにやりました、こうしましたと教頭や校長に報告するというようなシステムはあるのですか。

◎早川義裕義務教育課長 各学校の道徳の授業につきまして、まず学校では全体計画というものを作成します。当然、これは管理職のもとで決裁を受けた全体計画であり、そしてそれに基づいた年間の指導計画、その中で各学年あるいは学級での取組について、事前に計画を立てて日々それを授業で実践していくということになっております。

◆帆苅謙治委員 そうすると、クラスごとにどう実践しているかという細部は、あまり分からないわけですね。

◎早川義裕義務教育課長 校長のところすべての授業、取組の情報があるかということ、それは難しいかと思いますが、校長は当然、校内巡視や授業を回って見ておりますので、そのような中でつぶさに観察をしたり、あるいは先ほど申しましたように、授業の研修会とか授業公開等も日々行っております。そういうことを通じて日常の取組については把握できていると受け止めております。

◆帆苅謙治委員 今、思想教育とかそういうものはないのでしょうか、私が小学校のころは、自分にもそういう思い出があるような気がします。国歌君が代を、あれは相撲の歌だとかという指導を受けたこともあります。そういう事例は今はないと思いますが、全県下にわたって、そういう事例というか、思想教育というとおかしいですが、そういうカリキュラム以外の授業を道徳教育の中でやったというような、あるいは注意をしたとか、そういう事例はありますか。

◎早川義裕義務教育課長 先ほど申し上げましたように、学校の計画に基づいて適正に進められていると受け止めておりまして、現在までそのような報告は特に受けておりません。

◆帆苅謙治委員 これで終わりますが、そういうことのないように、きちんとした道徳教育、この前の東日本大震災で子供やお年寄りをいたわって、ごはんを先に食べさせたとか、外国のメディアも驚いたというような、そういう日本人古来の優しさというものを今後植えつけると言いますか、それをずっと日本の伝統として守っていけるような、そういう道徳教育が私は必要だと思っておりますので、その辺をよろしく願います。以上であります。